

競 技 注 意 事 項

1. 競 技 方 法 2023年日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
2. アスリートビブス 個人アスリートビブス（男女赤字）を胸背部につける。ただし、跳躍競技は胸背いずれかでもよい。トラック競技に出場する選手は全員腰ナンバー（大会本部で用意する）を右腰後方に付ける。
3. 招 集 ○招集完了時刻は、トラック競技は競技開始の20分前、フィールド競技は種目ごとに招集完了時刻が異なる（25～100分前）ため、タイムテーブルをよく読むこと。
○招集は招集完了時刻の10分前から行う。競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。棒高跳は現地招集とする。
○他の種目と競技時刻が重なる場合には、最初の種目の招集時に招集所の審判にその旨を告げておくこと（両方の種目の招集をその場で受ける。）
○招集時刻に遅れた選手は棄権とみなす。事前に欠場がわかっている選手については欠場届けを招集所に提出しておくこと。
○招集所は雨天走路内（100mスタート付近）とする。
4. 練 習 場 ウォーミングアップ場は、原則補助競技場とする。棒高跳については、係員の指示に従って本競技場のピットで練習することができる。
5. 使 用 器 具 器具は本部で用意したものをを使用すること。ただし、棒高跳のポールは各自のものを使用すること。
6. トラック競技 ○不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。
○スタートの不適切行為に関しては、審判長によって警告（イエローカード）を与えられることがある。本大会は種目ごとの累積とし、同一種目のイエローカード2枚で当該種目のみ失格（レッドカード）とし、競技会からは除外しない。
○短距離では、事故防止のためフィニッシュライン到着後、自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
○予選会の部はタイムレース決勝とする。
7. フィールド競技 ○予選会の部の三段跳、円盤投・ジャベリックスローは3回の試技の結果、上位8名は更に3回の試技が与えられる。記録会の部の走高跳・棒高跳を除く競技は、試技は3回とする。
8. バーの上げ方 最初の高さとバーの上げ幅は当日決定する。
9. ス パ イ ク トラック種目・走幅跳・棒高跳は9mm以下、走高跳12mm以下とする。
10. シ ュ ー ズ 靴底の最大の厚さについては、以下のようにする。
800m未満のトラック種目・フィールド種目 20mmまで
800m以上のトラック種目 25mmまで
11. そ の 他 ○当日の選手変更は一切認めない。
○100mと走高跳以外の予選会の部で優勝した者は、U16陸上競技大会の同種目への参加資格を得る。
○当日審判員のいない学校は、選手の出場を停止する。
○競技する選手・補助員以外は、トラック・フィールド内に立ち入ることはできない。
○大会中はアスリートビブスをADカードの代わりとする。
○応援横幕はスタンド上段に、のぼりはメインスタンド最上段に設置すること。
○テントはメインスタンド、バックスタンドともに上段に設置すること。サイドスタンドは、通路より上に設置すること。強風で飛ばないように気をつけて設置すること。
○ウォームアップ場には、設置してある用器具以外、持ち込まないこと（ただし、ピストルを除く）。投げる行為は禁止とする。
○中学生は携帯電話等の電子通信機器を競技場内では原則として使用しないこと。
また、携帯電話や通信機器（通信機能のあるスマートウォッチを含む）、および音楽再生機器等は競技場内に持ち込めない。（競技規則 TR6.3.2）
○トランシーバーを使用する場合には、本部で使用する7・8・9・10・11チャンネルの使用を禁止する。